

産学官が活性策検討

アグリコラボ いとしま総会 稲作技術など報告

【福岡・糸島】糸島地域の農業者・JA糸島・九州大学大学院農学研究院・糸島市・福岡普及指導センターでつくる糸島農業産学官連携推進協議会（通称「アグリコラボいとしま」）が、九州大学伊都キャンパスで第1回通常総会と個別研究報告会を開いた。個別研究の

報告では、糸島稲作経営研究会の林一磨会長が「安定・高品質水稻生産技術確立に向けた農業情報利用促進」について、福岡県青年農業士の加茂正彦さんが「糸島における情報化農業の展開」について、それぞれ研究の経過や期待を述べた。

同大学の中司敬教授は「油温減圧乾燥による高品質飼料・肥料の開発」のほか、期待される研究課題として「農業用溜（ため）池がもつ多面的機能の維持管理」「GIS（地理情報システム）を用いたイノシシ被害調査と対策」「柑橘（かんきつ）栽培のブランド化」

など各プロジェクトの概要を説明した。近年の温暖化による水稻「ヒノヒカリ」などの品質低下に対しては、従来の勘や個人の知識だけでの限界から、データ化で対策に協力。「安定・高品質水稻生産技術確立に向けた農業情報利用促進」として、平井康丸准教授が「どんな生育相をとれば、どんな品質になるのか」など、収量・品質の決定過程の分析を行う。

「糸島における情報化農業の展開」ではキユーリ・ブロッコリー・トマトの若手農業者がデータ化に協力し、岡安崇史准教授が内容について説明した。「アグリコラボいとしま」は関係各機関などが連携協力しながら糸島地域の創造と活性化を目指すため2010年3月に結成。9月7日に第1回ワークショップを開き、ホームページも開設する。